

# 私たちの宗旨は、浄土真宗です

【本尊】

南無阿弥陀仏（本願の名号）

阿弥陀如来像（方便法身尊形）

【正依の經典】

『仏説無量壽經』（大經）

『仏説観無量壽經』（観經）

『仏説阿弥陀經』（小經）

【宗祖】

親鸞聖人（愚禿釈の親鸞）

【宗祖の名著】

顕浄土真実教行証文類（教行信証）

【宗派名】

真宗大谷派

【本山】

真宗本願寺（東本願寺）

## 真宗門徒とは？ 私はどこで生きているのか



真宗は、「神祇不拜」の宗旨をもつ宗教だといわれています。「神祇不拜」とは、「神さまをたてない、拝まない」という意味です。親鸞聖人は主著『教行信証』の化身土巻で、「余道に事うることを得ざれ、天を拜することを得ざれ、鬼神を祠ることを得ざれ、吉良日を視ることを得ざれ」という經典のことは引用されています。しかし、自らを仏教徒と名のりながら、神さまに願をかけ、吉日良辰にとらわれ、お守りを持つような生活をして、もっぱら「余道」をたのみとしているのが、私たちの姿でもあります。こうした問題をあらためて考え直すしていくことが、自分が何に帰依し、どこをよりどころとして求めるかをあきらかにしていくことにつながるように思います。そして、こうした歩みこそが、ややもすれば名ばかりになっっている真宗門徒の信心を回復していく意味をもつのではないのでしょうか。

高田教区御遠忌テーマ

『私はどこで生きているのか』  
～たずねよう真宗の教えに～

企画 高田教区靖国問題研究班  
発行 真宗大谷派高田教区教化委員会  
〒943-0892 上越市寺町 2-24-4  
☎025-524-3913 Fax025-524-2045  
URL <http://takada-kyoku.jp>  
E-mail [takada@higashihonganji.or.jp](mailto:takada@higashihonganji.or.jp)  
2015年6月発行



# 信を問うとくらくと



「かなしきかなや道俗どうぞくの

良時吉日りようじきちちちえらばしめ

天神地祇てんじんじぎをあがめつつ

卜占ぼくせん祭祀さいしつとめとす」

『正像末和讃』(聖典五〇九)

(口語訳)

悲しいことだ。

仏教に帰依しながら、

僧となつて道を歩む人も、

世俗の生活を送る人も、

日時のよしあしや吉凶を選び、

天の神、地の神に怖れひれ伏し、

禍を避け、福を求めめるために、

占いや祭祀を専らとしている。

浄土真宗は、「親鸞におきては、ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべしと、よきひとのおおせをかぶりて、信じるほかに別の子細なきなり」(『歎異抄』)と宗祖親鸞聖人がいわれていることからもうかがえるように、「南無阿弥陀仏」を御本尊とする、つまり「弥陀一仏」を掲げる仏教であり、宗教です。このことに疑いを持つ人はおおよそいないことと思われまます。

しかし、一方で、真宗門徒であるといわれている人の家にも、神棚が存在する場合があります。

真宗門徒には、「神祇不拜(御本尊以外の余の神仏を拜まない)」という

伝統があるといわれています。ここに立てば、仏教徒でありながら、神棚を祀り、神をたのみとするような立場は、「余道」につかえる立場であり、仏教徒にあらざる姿(外道)ということになります。

前述の和讃は、宗祖が作成されたものですが、「かなしきかなや」と嘆かれるのは、仏道に生きる人もそれ以外の人も、日時や方角の吉凶禍福を選び、天地の神を崇拜し、占いや祭祀を専らとする日々を送っていることを、自らの課題とされた深い慚愧から起こつてくるのでしよう。

今、この宗祖の悲しみは、現代を生きる私たちにも向けられているとはいえないでしょうか。

吉凶に怯えたり、占いに頼つたりすることは、私たち人間が、実生活の中で不安を抱えながら生きていくことの裏返しであるともいえます。不安である以上、祈つたり、占つてもらつたりすることによって、心が落ち着くというのであれば、それらのものに従つて生きることも仕方のないことなのかもしれません。

しかし、宗祖は、そのような生き方を「かなしきかなや」と嘆かれるのです。その嘆きの意味とは、私たちが、占いや祭祀にとらわれて、本当に人間らしく生きる道と帰るべき場所(浄土)を見失つて迷っているからだとはいえないでしょうか。

